

令和7年度 学校評価アンケート号

京都市立向島秀蓮小中学校

※電子配信しております。

紙面印刷・インク代などの経費削減にご協力ありがとうございます。

《学校教育目標》 「他とつながる力」・「未来を拓く力」の育成～果敢に挑戦、知らない自分に会いに行け!～

7月に行った学校評価アンケートの結果をまとめ、分析を行いましたのでお知らせします。

R 7 前期 学校評価アンケート（生徒）

関連部	番号	質問内容	ステージ	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
学校独自	17	チーム担任制は、担任の先生が複数人いることで、クラスや学年が良くなったと感じる	B	46%	36%	11%	7%
			T	28%	46%	19%	8%
			V	25%	46%	22%	7%
	18	チーム担任制は、たくさんの先生に話がしやすくなったと感じる	B	54%	29%	14%	3%
			T	36%	48%	12%	5%
			V	25%	46%	22%	7%
	19	蓮花タイムなどで地域とのつながりを大切にした学習を進められている	B	55%	33%	6%	7%
			T	32%	58%	9%	1%
			V	30%	56%	12%	2%
	20	地域の方や、見守り隊の方に、元気よくあいさつしている。	B	63%	23%	11%	3%
			T	35%	48%	15%	2%
			V	33%	46%	15%	5%
	21	どんな大人になりたいかを、家の人と話している。	B	50%	26%	11%	13%
			T	27%	27%	30%	16%
			V	18%	38%	28%	16%
	22	失敗をおそれずにたくさんのことにチャレンジしている。	B	56%	30%	11%	3%
			T	30%	44%	21%	5%
			V	25%	45%	22%	8%
	23	だれにでも思いやりの心をもって過ごしている。	B	57%	30%	11%	2%
			T	36%	54%	10%	1%
			V	38%	48%	11%	3%
	24	学校の行事や取組は、小中一貫義務教育学校の特色を生かしていると思う。	B	43%	45%	8%	4%
			T	45%	45%	10%	1%
			V	38%	57%	3%	2%
	25	教科担任制は、各教科を深く学ぶ機会となっている	B	53%	37%	7%	2%
			T	43%	52%	4%	2%
			V	42%	46%	8%	3%

※表記について BS；ベーシックステージ（1～4年） TS；チームステージ（5～7年） VS；ビジョンステージ（8・9年）（1組の生徒はそれぞれのステージに入ってアンケートを行っております。）※集計にあたっては、実施していない回答や無回答は除外しています。

質問 17：チーム担任制により、担任の先生が複数人いることで、クラスや学年が良くなったと感じる

・BS（2～4年）：高水準を維持（約 88%→約 82%）

・TS（5～7年）：ほぼ横ばい（約 76%→約 74%）

・VS（8・9年）：ほぼ横ばい（約 72%→約 71%）

質問 18：チーム担任制により、たくさんの先生に話がしやすくなったと感じる

・BS：高水準を維持（約 85%→約 83%）

・TS：やや上昇（約 73%→約 84%）

・VS：やや低下（約 86%→約 71%）

考察（アンケート＋くらまね分析を踏まえて）

現在導入しているチーム担任制は、BS（2～4年生）において高い評価を得ており、複数担任によるサポートの効果が安定して発揮されていることがうかがえます。「くらまね」の分析からも、生徒と担任とのつながりについても、学校全体として「おおよそ望ましい」という結果が出ており、担任との関係性は概ね良好であると考えられます。

また、TSにおけるチーム担任制の効果について

「先生に話しやすい」と感じるお子さんが大きく増えました（73%→84%）。学級や学年の雰囲気改善は横ばいですが、相談しやすさが確実に広がっています。今後は、相談が学級づくりや学習改善にどうつながるかを見える形にし、さらに安心できる環境を整えてまいります。ご家庭でも、気になることがあれば学年担当へお気軽にご連絡ください。

VSにおいても、「クラスや学年が良くなった」と感じる割合はほぼ横ばいでしたが、「先生に話しやすい」と感じる割合は大きく下がりました。進路や人間関係の悩みが増える時期に、相談しやすさを確保することが課題です。学校では、相談窓口の明確化、個別声かけの強化、面談の柔軟化を進め、安心して話せる環境を整えてまいります。

今後の方向性

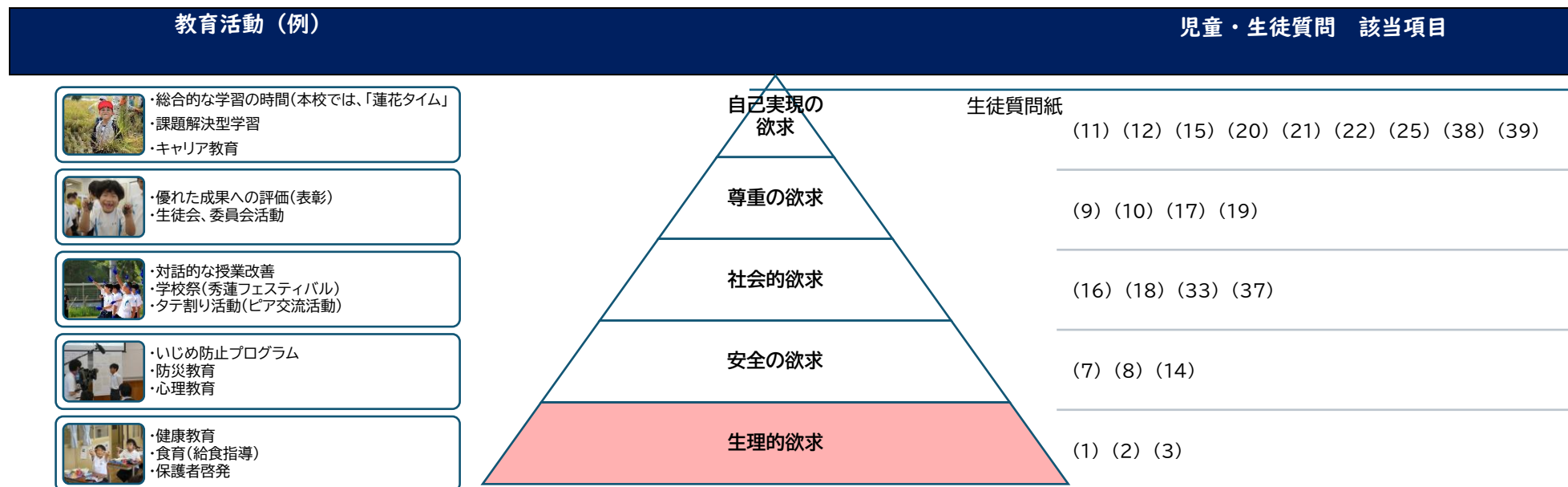
チーム担任制は、子どもたちをより多面的に支えるための大切な仕組みです。今回の結果を踏まえ、学年ごとの特徴やお子さんの成長に合わせて、どのような形がより良いのかを、これからも丁寧に探っていきたいと考えています。制度の枠を守るだけでなく、日々の運用やサポート体制に工夫を重ねながら、保護者の皆さまと一緒に、より安心できる仕組みへと育ててまいります。

また、「くらまね」の分析結果からも、生徒と担任とのつながりが全体として良好であることが確認されており、この信頼関係を土台に、より個別性の高い支援や相談体制の強化を図ることが、今後の改善に向けた重要なポイントとなります。

※「くらまね」とは、京都市教育委員会から全市の学校を対象とした[クラス・生活についてのアンケート]の略称です。このアンケートは5年生～9年生までが実施しており、正式名称は【クラスマネジメントシート】といいます。

今年度本校は、R6 年度学校評価アンケート結果及び、全国学力学習状況調査（6年生・9年生）結果をもとに、R7 年度、研究テーマとして「他とつながる中で、自ら考え、実践、振り返り、さらに調整し、自己調整力を高め、本校の「6つの力」の育成を目指す」を掲げ、上半期教育活動を実践しました。

（参考資料） R6 年度 分析結果



下位の欲求 → 上位の欲求

生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	尊重の欲求	自己実現の欲求
忍耐力	自己制御	社会的スキル	自尊心（自己肯定感）	自己実現
意欲	問題解決力	共感能力・協調性	自己効力感	自信
集中力	心理的安全性	コミュニケーション能力		

5つの階層の中で、もっとも下位に位置付けられ、自己実現に向けて土台となる「生理的欲求」において、大きな課題があることがわかりました。これは、「食べること・眠ること」といった、日々の生活を行うエネルギーとなる基本的な欲求のことです。これは、R6年度だけに限らず、ここ数年間本校の課題の一つだと捉え、課題解決の契機となるような様々な教育活動において実践を推し進める必要があることがわかりました。

R7年度、上半期は、生活リズムアンケートや睡眠アンケート、栄養教諭を中心とした食育等を行いました。

「健やかな体」育成に向けての結果は、次の通りです。

「健やかな体」育成について

	年度	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
学年に応じた寝る時間を心掛けている。 (BS:午後9時 TS:午後10時 VS:午後11時)	R5(前期)	45%	22%	14%	18%	30%	21%	30%	18%	19%	20%	27%	34%
	R5(後期)	48%	22%	16%	14%	24%	25%	25%	27%	16%	16%	31%	37%
	R6(前期)	47%	26%	14%	12%	31%	26%	21%	22%	18%	21%	31%	30%
	R6(後期)	42%	24%	27%	8%	25%	20%	28%	27%	26%	29%	27%	18%
	R7(前期)	48%	24%	17%	11%	32%	28%	23%	16%	32%	25%	30%	13%
学校に行く日は、朝7時まで起きています。	R5(前期)	67%	14%	9%	9%	53%	20%	19%	9%	37%	26%	13%	25%
	R5(後期)	67%	18%	10%	6%	45%	22%	19%	13%	35%	27%	14%	24%
	R6(前期)	67%	17%	10%	7%	47%	24%	16%	13%	34%	27%	27%	12%
	R6(後期)	61%	19%	15%	5%	39%	26%	18%	16%	36%	27%	21%	15%
	R7(前期)	59%	20%	14%	7%	40%	29%	21%	10%	44%	25%	19%	12%
毎日必ず、朝ご飯を食べている。	R5(前期)	80%	11%	5%	5%	71%	16%	8%	5%	60%	20%	10%	10%
	R5(後期)	72%	18%	6%	4%	68%	19%	6%	6%	67%	17%	4%	11%
	R6(前期)	81%	11%	6%	2%	71%	12%	10%	7%	56%	24%	13%	7%
	R6(後期)	81%	11%	6%	3%	68%	17%	9%	5%	60%	26%	7%	7%
	R7(前期)	75%	12%	10%	4%	71%	19%	6%	5%	62%	22%	13%	3%
家や学校で意識して体を動かしたり、運動をしたりしている。	R5(前期)	70%	18%	8%	5%	48%	30%	14%	8%	40%	32%	20%	8%
	R5(後期)	71%	19%	6%	4%	45%	30%	18%	7%	33%	32%	24%	11%
	R6(前期)	64%	23%	10%	3%	54%	28%	12%	5%	41%	39%	16%	4%
	R6(後期)	63%	24%	10%	4%	47%	34%	13%	5%	41%	36%	16%	6%
	R7(前期)	62%	23%	10%	5%	53%	32%	11%	3%	52%	31%	15%	2%
家や学校での食事において、自分の体の成長に必要な栄養や分量を取ることができている。	R5(前期)	66%	25%	8%	2%	48%	38%	13%	1%	41%	43%	12%	4%
	R5(後期)	69%	23%	6%	3%	56%	35%	8%	1%	46%	37%	13%	4%
	R6(前期)	65%	24%	9%	2%	47%	42%	11%	1%	29%	53%	18%	0%
	R6(後期)	55%	30%	11%	3%	41%	47%	11%	1%	31%	49%	15%	5%
	R7(前期)	56%	30%	12%	2%	44%	44%	12%	1%	45%	43%	10%	2%

睡眠に関する傾向は、「学年に応じた寝る時間を心掛けている」は、R6 年度後期で一時的に低下したステージもありました。しかし、R7 前期の結果から全てのステージが改善傾向にあることがわかります。また、短時間睡眠などの望ましくない傾向が予想される「あまり出来ていない」「出来ていない」を示す項目においても、減少傾向にあることから、R7 年度前期において、生徒の睡眠習慣は全体的に改善傾向が見られます。

また、「毎日必ず、朝ご飯を食べている」からわかる朝食習慣や「自身の体の成長に必要な栄養やバランス、分量をとることができている」においての肯定的な回答も、増加傾向にあることがわかります。生徒の自己実現に向けて土台となる「寝ること・食べること」の課題において、睡眠教育と食育の両面での取組の効果が一定現れていると感じています。

しかし一方で、「家の人に言われるから寝よう。」や「遅刻すると注意されるから。」といった外発的な動機で自身の行動をコントロールする側面が見られる生徒もいます。

学年が上げるにつれて、生活リズムを一定コントロールすることができることや、「適切な睡眠」においても、例年の知識や情報がある中での回答結果として捉えると、まだまだ生活に対する欲求を受動的に捉えている傾向があります。また、朝食習慣の回答も、一定否定的な回答の数字に変動が見えにくいのは、「適切な睡眠」に大きく関係していると言えます。身体も心も著しく成長を迎えると言われる「黄金期」であるがゆえに、学校・家庭での速やかな改善が必要です。

まずは、この子どもの実態を受け入れ、共に生徒のより良い成長を促すことができればと考えています。

「生理的欲求」を土台とした上位の欲求（日々の授業、学校行事、生徒会・委員会活動、部活動など）に照らした実践結果は、次の通りです。

「確かな学力」育成について

	年度	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
他の人の考えに触れたり、自分の意見を説明したりして、自分の考えを深めることができる。	R6(前期)	49%	37%	12%	2%	37%	47%	13%	3%	30%	56%	14%	1%
	R6(後期)	39%	46%	14%	1%	24%	51%	24%	1%	33%	52%	14%	1%
	R7(前期)	45%	39%	14%	2%	27%	49%	22%	2%	29%	58%	8%	5%
授業の目標に向けて取り組み、授業の振り返りでは、考えたこと、目標達成度、次の目標やめあてを確認できている	R6(前期)	49%	37%	12%	2%	37%	47%	13%	3%	30%	56%	14%	1%
	R6(後期)	51%	35%	13%	1%	22%	54%	22%	2%	18%	62%	18%	2%
	R7(前期)	48%	39%	9%	3%	27%	55%	15%	2%	28%	51%	18%	4%
授業中に、友だちといっしょに問題を解決している。	R4(前期)	60%	29%	7%	4%	48%	40%	10%	2%	39%	50%	8%	3%
	R4(後期)	48%	37%	12%	3%	39%	52%	9%	1%	30%	56%	12%	2%
	R5(前期)	56%	28%	11%	5%	33%	51%	12%	4%	43%	45%	9%	3%
	R5(後期)	55%	32%	9%	4%	39%	50%	10%	1%	33%	55%	12%	0%
	R6(前期)	56%	29%	11%	3%	45%	43%	8%	4%	44%	50%	4%	1%
	R6(後期)	54%	33%	12%	1%	34%	54%	10%	2%	41%	53%	4%	2%
	R7(前期)	42%	38%	14%	7%	39%	48%	11%	3%	42%	52%	5%	1%

日々の授業に関する質問「他の人の考えに触れたり、自分の意見を説明したりして、自分の考えを深めることができています。」や、「授業中に、友だちと一緒に問題解決を行っている。」という質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は、全てのステージにおいて高いと言えます。これは、開校時より『生徒が夢中になって授業に参加すること』をねらいとし、日々挑戦してきた成果だと捉えています。本校は R5 年度より ICT を活用した反転学習に挑戦しています。従来のイメージにある教師が授業で説明する内容を授業者オリジナル動画や、既存の動画等で配信し、授業外（家庭）で「わかったつもり」を作り、これまで以上に友達と問題解決に向かう時間や応用力を身に付ける場面の設定を意図に生み出しています。単元のまとめとして行う「思わず考えたくなる問い・学習課題」などを事前に家庭で考えることで、生徒ははっきりとした目的意識の中、授業に参加することをねらいとしたものです。また、今年度は研究テーマに掲げる『他とのつながり』を「友達や先生、地域をはじめとしたさまざまな立場の人、もの、事象とのつながり」として捉え、それらとの『出会い』を大事に授業実践・授業改善を進めています。

そういった日々の取組が生徒の学習活動の定着及び学びの質に繋がっていると捉えています。

しかし一方で、肯定的な回答傾向に目を向けると、一時的に大きく減少が見られるところもあります。これは、生徒のふりかえりが、「自分の中では頑張ることができた」と主観的なものに留まり、さらに深い学びや、思考に至っていないことが予想されます。そのため、目に見える学力として捉えやすい単元テストや総括考査、全市共通テストの結果が厳しい。

今後も授業改善を続けていくと同時に、生徒の「ふりかえり」の質に着目し、取組を推し進めていきたいと考えています。「確かな学力」の育成が、本校の掲げる「幸せになるため」の要素の1つとして捉え、生徒の主体性向上、言い換えるのであれば、「生徒の心に火をつける」そんな取組を今後も続けていきたいと考えています。

算数 コース別学習 はじまる。

今回、回答してくれた 6年生

指導者のより良い授業づくりに向けての勉強会で、数名の生徒に話を聞いてみました。

Q「反転学習課題は、自分たちの学びを深める一つとなりましたか？」

へAさんへはい。私は、反転学習課題にあるテーマについて、事前に調べることをしています。そこで、これまで知らないことを知ったり、今まで思いつかなかった自分なりの答えを考えたりすることが出来ます。

それを次の授業で友達に伝えると、友達からさらに予想外の答えが返ってきたり、先生に「その意見おもしろいね!」とほめられたりします。そういったことを何度も繰り返ししていくことで、自分の考えがはじめと終わりでどんどん変わっていく感じがします。

Q 今日の授業をふりかえった時に、学校で身につけたい6つの力のうち、どの力が成長したと思いますか？

へBさんへ最初は、課題解決に向けて、色々調べたり、友だちの意見を聞いて新たな視点で考えなおしたりしたので、「考える力」か「コミュニケーション力」かと思っています。

「豊かな心」育成について

	年度	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
楽しく学校生活を送っている。	R5(前期)	78%	17%	3%	2%	65%	27%	6%	2%	63%	35%	1%	1%
	R5(後期)	74%	20%	4%	3%	61%	33%	5%	2%	61%	34%	3%	1%
	R6(前期)	72%	17%	7%	4%	56%	33%	9%	2%	52%	41%	6%	0%
	R6(後期)	68%	24%	5%	3%	48%	44%	7%	1%	52%	38%	7%	4%
	R7(前期)	65%	25%	6%	4%	49%	42%	7%	3%	54%	40%	5%	2%
友だちと協力することを大切にしている。	R5(前期)	82%	14%	3%	1%	65%	28%	6%	2%	61%	34%	3%	1%
	R5(後期)	74%	21%	4%	2%	65%	29%	5%	1%	58%	38%	4%	1%
	R6(前期)	72%	22%	4%	1%	60%	36%	3%	1%	54%	41%	4%	0%
	R6(後期)	71%	23%	5%	1%	49%	43%	7%	1%	61%	38%	0%	1%
	R7(前期)	67%	24%	7%	2%	56%	38%	5%	1%	54%	42%	3%	2%
学校の行事や取組は、小中一貫義務教育学校の特色を生かしていると思う。	R5(前期)	74%	19%	5%	2%	53%	38%	7%	2%	53%	43%	4%	0%
	R5(後期)	70%	25%	4%	2%	55%	35%	7%	3%	55%	39%	6%	1%
	R6(前期)	68%	22%	6%	4%	45%	42%	11%	3%	41%	52%	7%	1%
	R6(後期)	64%	28%	7%	1%	39%	47%	12%	2%	40%	52%	7%	1%
	R7(前期)	43%	45%	8%	4%	45%	45%	10%	1%	38%	57%	3%	2%
他の学年の人とのつながりを大切にしている。 (ピア交流活動など)	R5(前期)	75%	19%	5%	2%	58%	33%	8%	1%	46%	48%	6%	1%
	R5(後期)	69%	26%	4%	0%	50%	40%	8%	2%	49%	43%	7%	1%
	R6(前期)	71%	23%	5%	1%	51%	39%	8%	2%	33%	54%	13%	1%
	R6(後期)	70%	24%	5%	0%	32%	54%	9%	4%	34%	52%	12%	2%
	R7(前期)	64%	30%	4%	3%	39%	49%	11%	1%	37%	51%	8%	4%
自分以外の人を大切にし、それぞれの個性を認めるようにしている。	R5(前期)	73%	23%	3%	1%	52%	42%	5%	1%	56%	43%	1%	0%
	R5(後期)	63%	31%	5%	2%	53%	42%	5%	0%	57%	41%	1%	0%
	R6(前期)	63%	29%	6%	2%	49%	47%	4%	0%	47%	50%	3%	0%
	R6(後期)	54%	37%	8%	0%	37%	54%	6%	2%	47%	49%	1%	2%
	R7(前期)	55%	37%	6%	2%	45%	50%	5%	0%	43%	55%	2%	1%

本校は今年度より日々の授業や行事、異学年との交流活動（ピア交流）を通して、子どもたちが「人と関わる力」や「自分の気持ちをコントロールする力」を育てる取組を行っています。例えば、「友だちと話し合って、何かを決める活動」や「自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いたりする場面での伝え方」、「行事での協力や、失敗から学ぶ経験」といったことをロールプレイ（場面設定）で学ぶことや、行事や学年の取組後の振り返り活動（感情整理）で学ぶことを授業で意図的に組み込んでいます。そういった取組の成果が「友だちと協力することを大切にしている」や「自分以外の他者を認める」といった結果につながっていると捉えています。R6 年度結果よりやや減少傾向に見られるステージも、これらの学習を重ねる中で、「協力することとは？」や「他者の個性を認めるとは？」を自問し、これまで以上に正確に捉え、回答していると考えています。また、R6 年度前期の結果では、「ピア活動」の項目において、学年が上がるにつれて、肯定的な意見が少しずつ低くなる傾向が見られ、上級生にとっての達成感や充実感を感じるものの弱さが心配されました。しかし、生徒会活動を中心としたピア交流活動では、上級生一人ひとりが役割や改めて責任感を持つ意義を考えたり、日々の学校生活の中で自然発生するピア交流などで、下級生より「憧れられる存在」として達成感な

どを感じたりすることで、つながりを強く意識した結果、チームステージ以上の生徒が「よく出来ている」「だいたい出来ている」の結果が95%以上となっています。

本校では、開校以来7年間にわたり、「学校評価アンケート」を実施し、その結果を分析しています。その中で、ここ2～3年間に於いて、共通して見られる傾向があることがわかってきました。学年が進む（ステージが進む）につれて、「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」における多くの質問項目で、「出来ていない」「あまり出来ていない」の否定的な回答に減少傾向が見られます。例えば、「授業中に友だちといっしょに問題を解決している」という質問においては、BSは約21%（あまり出来ていない・出来ていない）。TSは約14%、VSでは約6%となっています。これは、本校の強みの一つ、「小中一貫」を手段としたさまざまな取組の成果だと捉えています。

授業中に、友だちといっしょに問題を解決している。	R4(前期)	60%	29%	7%	4%	48%	40%	10%	2%	39%	50%	8%	3%
	R4(後期)	48%	37%	12%	3%	39%	52%	9%	1%	30%	56%	12%	2%
	R5(前期)	56%	28%	11%	5%	33%	51%	12%	4%	43%	45%	9%	3%
	R5(後期)	55%	32%	9%	4%	39%	50%	10%	1%	33%	55%	12%	0%
	R6(前期)	56%	29%	11%	3%	45%	43%	8%	4%	44%	50%	4%	1%
	R6(後期)	54%	33%	12%	1%	34%	54%	10%	2%	41%	53%	4%	2%
	R7(前期)	42%	38%	14%	7%	39%	48%	11%	3%	42%	52%	5%	1%

以下に記載しているのは、教職員全体で、入学から卒業を見据え、様々な教育活動を意識しているアンケートの回答結果です。

	年度	教職員			
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
将来(卒業後)を見据えた視点を伝えながら、生活指導や学習指導を行うように心がけている。	R7(前期)	32%	65%	3%	0%

教職員全体で本校の学校教育目標にある「つながり」を共通のキーワードとし、従来の小学校課程での6年間、中学校課程での3年間という枠組みではできない9年間という大きな枠組みで、捉えているからこそその結果だと捉えています。今後も、「系統立てた教育活動」を通して、様々なことに挑戦していきたいと考えています。

最後に、ついつい我々大人たちは、「子どもに良かれと思って」や「もっと向上してほしい」「もっと力をつけてほしい」と、ロウるさくできていないことや、修正すべき所を指摘したり教えたりしがちですが、それよりも大人が目を細めて見ることが出来る機会をたくさん作り、「ありがとう」が出てくる関わりを、これからも追いかけていきたいと思っています。

学校から配布するプリントの多くを電子配信させていただいております。それに伴い、PTA メールや学校 HP 等で保護者の皆様に直接確認してもらうことが増えました。ご協力ありがとうございます。今後も学校の様子や学年からお知らせしたいことなど、HP に掲載していきますので、ご覧いただき、ご家庭でお声かけ等していただけるとありがたいです。

